

東洋製罐が国内最軽量アルミ缶の開発を実現、量産を開始 —温室効果ガス排出量削減へのさらなる貢献—

当社の連結子会社である東洋製罐株式会社（以下「東洋製罐」）は、飲料缶の底部をリフォームして強化し、軽量化を可能とする缶底耐圧強度向上技術（CBR（Compression Bottom Reform））を使用することにより、204径 SOT（ステイオンタブ）缶において国内最軽量^{※1}となるアルミ DI 缶（以下「最軽量アルミ缶」）の開発を実現しました。これにより、温室効果ガス（以下「GHG」）排出量のさらなる削減が期待されます。このたび、東洋製罐の千歳工場・基山工場を皮切りに、全国の工場において 350ml・500ml の最軽量アルミ缶の量産を、2024年4月より順次予定しています。

※1 アルミ DI 缶における 350ml・500ml の 204 径 SOT（ステイオンタブ）缶の空缶として
（2024年3月 東洋製罐調べ。空缶には蓋は含まれておりません）

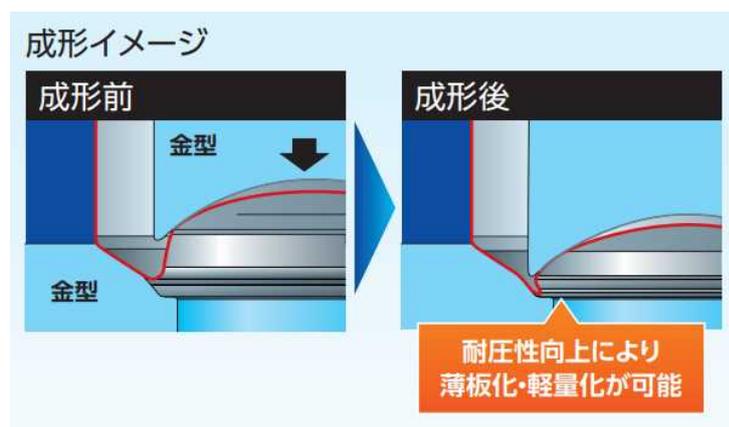


主に酒類に多くご使用いただいている 204 径 SOT（ステイオンタブ）缶において、今回、CBR を使用したことで、350ml 缶は現行缶 11.7g から 10.2g に、500ml 缶は現行缶 15.0g から 13.0g に、それぞれ 1.5g と 2.0g の軽量化を実現しました。

これにより、350ml 缶・500ml 缶ともに、1 缶当たりの GHG 排出量は、現行缶よりそれぞれ約 9% 削減することができました。また、CBR が適用可能とされるアルミ飲料缶すべてに CBR を採用した場合、GHG 排出量が年間約 40 千 t^{※2} 削減される見込みです。

※2 東洋製罐における現行仕様のアルミ飲料缶の 2022 年度製造実績および国内最軽量缶 1 缶当たりの GHG 削減量を基に算定

【ご参考】 CBR による缶底部の成形イメージ



CBR は、従来の製缶技術と比べ、高い缶底耐圧強度を提供することができるなど、品質と軽量化が両立できる革新的技術であり、アルミ材料の使用量削減にともなう GHG 排出量減少にも繋がります。現在、東洋製罐の千歳工場・基山工場を皮切りに、全国の製造拠点への展開を進めており、これにより最軽量アルミ缶の普及と、それにとともなう GHG 排出量のさらなる削減を進めて参ります。

当社グループは、社会や地球環境について長期的な視点で考え、すべてのステークホルダーの皆さまに提供する価値が最大化するよう、2050 年を見据えた「長期経営ビジョン 2050『未来をつつむ』」を 2021 年 5 月に策定しました。当社グループの目指す姿・ありたい姿を「世界中のあらゆる人びとを安心・安全・豊かさでつつむ『くらしのプラットフォーム』」と位置づけ、「多様性が受け入れられ、一人ひとりがより自分らしく生活できる社会の実現」「地球環境に負荷を与えずに、人々の幸せなくらしがずっと未来へ受け継がれる社会の実現」を目指し、事業活動を推進してまいります。

■本リリースに関するお問い合わせ先

サステナビリティ推進部 コーポレートコミュニケーショングループ 中野利

TEL : 03-4514-2026 Mail : tskg_contact@tskg-hd.com

以 上